



2013年度 成果概要③

「仏教・浄土教を機軸としたグリーフサポートと救済観の総合的研究」

Research on Grief Support and Salvation based on Pure Land Buddhism Thought

■大学院教育プログラムへの展開

「心のケア」を実践する宗教者 「臨床宗教師」を養成龍谷大学大学院実践真宗学研究科と東北大学大学院文学研究科が連携協力する大学院教育プログラムがスタート

最も大きな成果の一つは、人間・科学・宗教オープンリサーチセンターの研究を機軸とし、大学院教育プログラムが2014年度から開設されることである。

龍谷大学大学院実践真宗学研究科では、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座と連携協力して、「心のケア」を実践する宗教者「臨床宗教師」を養成する大学院教育プログラム「臨床宗教師研修」を、2014年4月に開設する。東日本大震災以降、被災者の悲しみに寄り添い、被災者に大きな勇気と生きる希望を与えてきた「臨床宗教師」を本学大学院から社会に輩出し、現代世界の人々の苦悩を聞き、孤立する人々に寄り添う宗教者の養成をめざす。

2013年2月27日に京都大学記者クラブにおいて、龍谷大学大学院実践真宗学研究科における「臨床宗教師研修」が東北大学大学院実践宗教学寄附講座と連携してはじめることを正式に発表した。2月27日に記者発表したのには、理由があった。東日本大震災から3年を経て、大震災で亡くなった人々、行方不明の人々、その家族の悲しみや無念さを忘れず、被災地で学んだことをこれから未来の世代に伝えていきたいという願いがあったからである。

2014年度は、人間・科学・宗教オープンリサーチセンターが中心となり、この臨床宗教師研修に関わるシンポジウム、グリーフケア、スピリチュアルケア、救済観に関する特別講義を開催し、龍谷大学大学院実践真宗学研究科、東北大学大学院実践宗教学寄附講座研究教育と連携しながら、研究教育を進めていきたい。医師、看護師、ビハラー僧などの臨床の現場から見えてくる知見にも引き続き学んでいきたい。